

水稻の田植え後の初期生育確保

稲わらの秋すき込み時期が遅れたり、春すき込みになったりする水田が増えています。また、再生稲（ひこばえ）が大きくなり、今春の水田の乾きも悪い中、稲わらの腐熟が十分に進まないまま、耕起・代かきを行い、生育初中期に「ワキ」の発生が多くなると見込まれます。そこで、初期生育に阻害を与える要因をできるだけ排除する対策について説明します。

1. 保温的水管理と除草剤散布後の水管理

田植え後の苗が活着するまでの間は、できるだけ地温を上昇させることと、風による植傷みを防ぐために、やや深水の水管理が必要です。また、除草剤散布後、5日間程度は足し水を避けて湛水状態を保つ必要があります。

2. ワキ対策

(1) 水管理によるワキ対策

深水期間が長くなると、土壌中の酸素が減り還元状態になり、ワキの発生を促します（図1）。この還元状態を改善するために、まず苗の活着後は浅水に切り替えます。除草剤散布後1週間程度経過したら、水田に足を踏み入れてワキの発生がないかを確認します。もし、ワキの発生を確認したら、その程度によって下表の対策を実施します。



図1 ワキが多く発生

表 ワキの発生程度とその対策（1980年、新潟農試 ※一部改変）

ワキの程度	ワキの発生状況	水稻への影響	対策	
			分げつ初中期	分げつ盛期
少	水田に足を踏み込むと僅かに気泡の発生がみられる。	なし	—	—
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	用水更新	用水更新
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	根張り不良	夜間落水	用水更新を繰り返す
甚	晴天時に自然に気泡を発生し音が聞こえる。水田内を歩くと著しく気泡を発生する。	根の伸長阻害、葉の黄化	夜間落水を繰り返すか、風がない日に2～3日落水する	早期中干し後に間断かん水する

※夜間落水は、気孔が閉じている夜間でかつ風のない暖かい日に落水し、翌朝にかん水する。

(2) 事前にワキの発生が予測される場合の対策

ワキの中で硫化水素が多く発生する場合（ドブ臭い）は、土壌中の鉄、マンガンが不足していることが考えられます。

前年秋にごま葉枯病（図2）が発生したり、土壌分析で過去に鉄成分が少ない診断があったりした水田では、耕起前に鉄やマンガン入りの土づくり資材を投入します。



図2 ごま葉枯病の多発生

3. 硫黄欠乏による初期生育不良

毎年、下葉に赤枯れ症状（図3）が見られたり、稲が黄化し分けつの発生が遅れたりした水田では、硫黄不足が原因と考えられ、イナズマS（図4）を田植え直前に苗箱に施用します。

ただし、鉄欠乏の水田は鉄やマンガンの施用を優先してください。



図3 赤枯れ症状

（写真提供：HP 埼玉の農作物病害虫写真集）

イナズマS

全カルシウム	水溶性 カルシウム	硫 黄
28.5	26.3	17.0

【育苗箱施用の施用量目安】

育苗箱20～40枚あたり1袋（5kg）
（苗箱1枚当たり125～250g）

【施用時期】

移植直前

※移植前の早すぎる施用は葉先等の傷みの原因となるため、
移植直前に施用してください。

図4 イナズマSによる硫黄供給（片倉コープアグリ株）

（担い手・営農支援部 担い手・営農支援課）

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。